

フランチャイズを大阪に一本化した
大阪元年のバッファローズを特別にビスタルームで応援！

中村勝広氏講演と京セラドーム・大阪の

“ビスタルーム”で応援する

「オリックス・バファローズ」

2008年6月15日(日) 11時～16時

講師: オリックスバファローズ

取締役球団本部長 中村勝広氏

会場: 京セラドーム大阪・7階ビスタルーム

野球シーズン到来！

今年からフランチャイズを大阪に一本化したバファローズ。まさに“大阪元年”をなる2008年シリーズに真剣勝負！京セラドーム大阪で試合前にグラウンドでの練習やバックグラウンドの裏舞台を見学し、テレビやソファアーにミニキッチンに観戦用バルコニーも敷設した32名限定の「特別観覧室ビスタルーム」で中村取締役本部長の講演を拝聴したあとに、昼食を食べながら、オリックス・バファローズ対中日の試合を楽しみました。



11時～11時45分 : 京セラドーム大阪のグラウンドで記念写真を取り、オリックスのベンチに座って記念写真を撮りました。

11時半～12時半 :
ビスタルームにて、
中村勝広氏の講演

中村勝広氏

(1949年6月6日千葉県生まれ) 早稲田大学から1971年、阪神にドラフト2位で入団。

早大では主将を務め、プロ入り1年目から頭角を現し3年目の1974年には引退した安藤統男にかわる二塁手のポジションを獲得。以降1978年まで正二塁手の座に座り、堅実な守備で1970年代のチームを支えた。1978年に残したシーズン守備率.995は当時の日本記録。1981年からコーチ兼任。1982年限りで現役・コーチ退任。1983年～1987年に2軍監督で、1986年にはウエスタン・リーグ優勝している。1988年は作戦守備走塁コーチ(途中からヘッド格)1年勤め、1990年に阪神の監督に就任し、1992年にAクラス・2位に浮上させるが、1995年の7月23日限りで途中休養、藤田平2軍監督が代理監督となり、シーズン終了後辞任。

その後、1989年・1996年～2003年まで毎日放送、スポーツニッポンの解説者を経て、2001年からプロ野球マスターズリーグの大阪ロマンズに参加。

2003年秋にオリックスの取締役常務兼GMに就任。GMとしては村松有人、菊地原毅らチームの中心となる選手の補強に成功し成果を上げた。また「契約金ゼロ枠」を廃止した事でも知られている。

2005年シーズン終了後、仰木彬監督の勇退により監督就任し11年ぶり現場復帰。2006年からオリックスを率きいて1年間監督を務めた後、シニア・アドバイザー(SA)を経て球団本部長に就任。2008年からは取締役も兼任する。



無名高出身者から早稲田主将へ

中村です。今日は私の野球人生を振り返りながら、お話をさせていただきます。

日本に野球が伝わるのは、明治5年。アメリカ人の教師が東京において指導したというのがわが国における歴史だそうです。プロ

野球が発足したのが1936年ですから、72年の歴史を持ちます。ジャイアンツが日本で初めてのプロ野球球団で、タイガースが二番目、阪急ブレーブスが3番目になります。僕自身も小さいときから、長島さんに憧れて是非プロ野球選手になりたいという大きな志を持ったのが、小学校3年生の頃でした。運良く、恵まれた野球人生を歩むことができたのですが、特に誇りに思っていることは、大学野球の名門の早稲田大学の野球部で4年生の時にキャプテンをさせてもらったことです。僕は、千葉県の成東高校という無名高の出身で、名門早稲田は大学野球のメッカでしたので、全国各地の名門高出身や、ドラフトに指名された選手も何人かいて、一学年で五、六十人が入るんですが、千葉県の田舎の無名高出身者などは、全く相手にしてもらえません。早稲田の練習では、全体練習をやった後に、暗くなってから一年、二年の練習になるわけで、僕はショートでして、同じポジションに、一、二年だけでも、7、8人いるので、時間の関係で無名高出身の選手は守らせてもらえないんです。実は、同級生のボール拾いから僕の学生野球は始まりました。だから、初めはとっても悔しい思いをして『辞めて田舎へ帰ろうか・・・』と何度となく思いましたが、高校の恩師や両親に申し訳がないので『とにかく四年間はやろう』と奮起し、コツコツと頑張り、そして四年生の時には、なんと背番号「10」番、いわゆる六大学野球のキャプテンの背番号をつけてグラウンドに立つことができる信じられないことが起こるのです。何をいいたいかと言いますと、「諦めないでコツコツコツコツと努力することが大事だなあ」と思いました。雨だれも落ち続けると石に穴をあけてしまう、尚も落ち続けると木を断ち切るという諺があります。

たゆまぬ努力が大事だなあと学生時代四年間で学び、この4年間で私の野球人生を集約しています。学生時代は、合宿所生活でしたが、上級生が夜中に酔っぱらって帰ってきて「集合」という声がかかると、目を擦りながらに、2、3分後に集まり説教が始まるんですが、時間がなくてパジャマの上に学生服を羽織っていたりすると大変で上級生から殴られるので、夜中でもすぐ着替えなくてはならなかったり、夜中に1、2時間正座させられたこと等いろんな経験をしました。今高校野球が暴力事件が表沙汰になり問題になることがあります。僕らが若い頃は日常茶飯事当たり前のことでしたね。一年生が、四年生と目を合わせただけでも大変で、ぶん殴られるんです。四年生と目を合わせられないんです。練習を休んだ下級生に「貴様なんて練習を休んだんだ。」と上級生が詰問すると、下級生は「胃炎です。」と言ったのですが、上級生は「言えません。」と聞き取り「貴様、言えませんとは、何事だあ！なんで言えないんだ。」と怒ったという後には笑い話になるのですが、厳しい学生生活を過ごしたことが今の自分にとっても役立っていると思います。

二軍落ち寸前でチャンス到来！運に恵まれた野球人生

大学を卒業し、プロ野球に入ろうと思い、ドラフト二位でタイガースに指名されるのですが、そこでもプロとアマチュアの壁に悩み続けました。入団後、二年泣かず飛ばずで、かなり期待されながら結果が出ないということで、二年目

のオフに心機一転「結婚」して頑張ろうと思い結婚し、翌年三年目を迎えました。なかなか結果を出せない。当時、金田正泰監督がとうとう痺れを切らし、「中村。明日から二軍へ行け。」と言われ傷心のままロッカールームで私服に着替えていたら、マネージャーが慌てて飛んできて「中村。もう一度、ユニフォームに着替えろ」と言うのです。「どうしたんですか。」とたずねると、「レギュラーがケガをした。」というのです。先輩がバッティング練習で指にデッドボールを受けて試合に出れないのでお前が出ると呼ばれて急遽グラウンドに戻るんです。おまけに、僕が得意とした中日の左ピッチャーが出てきたので、二塁打を二本を打ってチャンスを掴みました。それから、レギュラーを何年か続けることができました。僕には沢山の恩師、恩人がいるんですが、一番の恩人は、先輩の選手をバッティング練習で球をぶつけた選手かなあと思うんですよ。それがなければ、あのままロッカールームでユニフォームを脱いだまま、二軍へ行って立ち上がってこれたかなあ。タイガースでレギュラーになり監督ができたかなあ、オリックスに呼んでもらって今の立場があるかなあと思うと、全く自信がありません。僕は、実力はないけど、運がいいんです。僕の人生をもう一度やり直せと言われれば、同じような人生を歩むことは無理だと思いますよ。

もう一つエラーしろ！の吉田監督の言葉に奮起！

そういうことで、レギュラーを何年かやらせてもらって監督になるわけですが、僕自身はタイガースに入って11年、現役選手をやらせられたのですが、入った時の監督が村山実さん、金田正泰さん、吉田義男さん、後藤次男さん、プレーザー、中西太さん、安藤統男さんと、7名の監督の下でプレーしました。その間、いろいろなタイプの監督の元で勉強させていただきました。一番の恩人は、吉田義男さんですね。それこそ我慢に我慢を重ねて育ててもらいました。後樂園の巨人戦でエラーを二つしてしまい、監督が三塁側のベンチから出てくるので、僕は『交代かなあ』と思っていると「お前何をしとるんや。もう一つやれ。やっていいから、もう一つエラーしろ！」と言われ、その言葉は僕に非常に勇気を与えてくれました。「もう一つエラーしろ」という支持に『俺のことをどれだけ信頼してくれているのか。それに応えるべく、もっと自信を持ってやればいいのか！』と自分に言い聞かせることができ、その年、プロ野球人生の中で一番の成績を残すことができました。ですから、監督とコーチ、或いは、監督と選手という、上司と部下との厚い信頼関係がばれていないと、人を育てたり、部下を育てたりということがなかなか出来ないのかなあということ吉田さんから勉強させていただきました。

タイガースの監督を、6年やらせてもらいましたが、勝負を掛けた六年目に「阪神淡路大震災」に見舞われグラウンドなども使えないなかでいろいろ苦勞し7月を以って辞任するんですが成績が出せないのを「阪神淡路大震災」の責任にしていたら、「オリックスブルーウェーブ」がなんと優勝してしまうわけですよ。六年間いろいろありましたが、いたずら電話は絶えずかかってくるし、負けが込んでいたある日玄関をあけると玩具のピストルが置いてあり、次に金槌がおいてあり、郵便受けに剃刀を十枚位差し込んだ割り箸が入れられ子供が新聞を取りに行つて手を切ったことがありました。星野さんはお金の引き出し方が上手で、本社からお金をもらって選手も揃え本当にいいチームになりましたよ。岡田君もよく頑張っているし、オリックスバファローズも負けずに、本社からお金をだしてもらって、いいチームをこれからつくってもらいたいなあと思っております。

監督は選手の気持ちを一つに結ぶ人心管理が仕事

監督とは、どんなことをするかというと、各地から個性の強い能力の優れたレベルの高い選手が集まってくるんですが、選手の技術を向上させることは言うまでもないんですが、ハート、気持ち、心をどうやって一つにまとめていくかということが監督の大きな仕事です。要すれば、人心管理ですね。野球の采配はたいしたことはないと思います。難しいのはピッチャーの交代だけです。後は、選手たちの気持ちをどうコントロールしていくのか。非常に大事なことだと思います。今ベンチに一軍選手がだいたい30人いるんですが、ゲームでるのが15名で、半分。六分の三。六分の二の10人が出たり出なかったり、六分の一の5名が全くでない選手。5名、六分の一については監督は見向きしてくれません。六分の一の10人は、監督側につくか、反体制側につくかとか精神的にプレているわけですね。その10人を監督側につけて、六分の一を、六分の一にして、一つにまとめていくテクニックです。ですから、六分の一は、監督かコーチが毎日声をかけてチームを一つにまとめていくのが仕事です。

今回、コリンズ監督から、大石監督代行に変わりましたが、コリンズ監督と選手とはどうしても通訳が必ず介添えするので言葉の壁が厚かったようです。コリンズ氏ももどかしかったし、いつも通訳を介していたので選手側もストレスが溜まっていったようです。ですから、どちらが良い悪いの問題ではなく、言葉の壁が問題だったのかなあと感じています。

大石監督代行になってからは、選手ともっとコミュニケーションを取ってくれるようにと依頼しましたが、非常にチームの雰囲気も明るくなったし、なかなか良いスタートを切りました。この体制で、今から巻き返しを図っていきますので、オリックスの応援をよろしくお願いします。考えてみれば小学3年生の時にプロ野球選手を目指す夢をみ、



プロになってからも長い間野球界にお世話になってきました。残りどんな人生になるかわかりませんが、少しでも、勿論球団の為野球界にお役に立てればなあと思

いながら毎日過ごしているところです。是非、またオリックスの応援のために、球場に足をお運びください。本日はありがとうございました。

12時半～16時頃： ビスタルームで昼食を取りながら、オリックス・バファローズ（2点）VS中日（4点）観戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
Dragons	0	0	0	0	0	4	0	0	0							4 8 0
Buffaloes	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0						2 9 1

塾生：秋山建人・大森史子・北原祥三・北村千代江・木村正治・後藤由利子・下野讓・杉山英三・中島一・中村孝夫・中山恵三・原田彰子・原田貴志・浜田真弓・坊下明信・堀結美子・松井佐知子・宮本雅彦・水本光洋・森川千代子・森田秀朗・米川俊信
家族：小畑信明・小畑美和子・森川惣吾
一般：和泉雅一・門林誠・佐伯恵美子・田浦ちずこ・山本ゆき・松田さとみ